

令和4年1月31日

令和3年度学校関係者評価委員会

大阪市立デザイン教育研究所

開催日時

令和4年1月31日（研究所展覧会期間）

学校関係者評価委員

大阪商工会議所 西支部事務局長

大阪市立第二工芸高等学校 校長

大阪市立デザイン教育研究所 後援会長

大阪市立デザイン教育研究所 所長

大阪市立デザイン教育研究所 教員〔司会〕

添付資料

- （1）令和2年度末就職状況一覧
- （2）オープンキャンパス・パンフレット

学校関係者評価委員会 次第

1 展覧会視察

13:10～13:20

大阪商工会議所西支部と取り組む「駅前ぶらりある区」プロジェクトの展示を視察

大阪商工会議所東支部と取り組む「商店街ハロウィン」プロジェクトの展示を視察

13:20～13:30

課題研究の展示を視察

13:30～13:40

春期セミナーを視察

13:40～13:50（所長室へ移動）

2 今年度の報告

13:50～14:10

(1) 新型コロナの影響

(2) 入試の状況

(3) 工芸高校との接続教育の状況

(4) 市立高等学校の大阪府移管に伴う影響

今年度のプロジェクトと授業から特徴あるテーマ

(1) すきまもり

・JR西日本

(2) にころぶ

・ジパング&近鉄百貨店

(3) インドネシア

・大阪大学

(4) 日本茜

・大阪・関西万博

3 委員からのご意見

14:10～14:40

(1) 企業との連携プロジェクトについて

(2) 高校との連携プロジェクト（高校との接続性）について

(3) その他のご意見

参考

学校目標について

(1) 学生自らが工業製品やそれに類する“モノ”“コト”をつくりだし、未来を切り拓く力を育成する。

(2) 高校との接続専門教育の強化

議事録

(展覧会視察後に実施)

F委員

(1) 新型コロナウイルスの影響

振り回されてはいるが、影響はそれほど大きくはないだろう。対面授業とオンライン授業をハイブリッドに行うなかで、対面授業の比率も高くなってきた。

(2) 入試の状況

45人募集に51人の応募があった。3年連続定員割れならデ研のあり方を考えると言われていたので、デ研としてはほっとしている。きちんと調査したわけではないが、デ研のニーズが上がってきているとの手ごたえがある。多くの大学でリモート授業が多くなっている状況下で、対面授業が多く行えているのも魅力の1つであろう。学費面でも受験生のニーズに合っているのであろう。

(3) 工芸高校との接続教育の状況

定期的カリキュラムの中で交流している。デ研の特別講義に工芸高校生が参加している。工芸高校で出前授業を行なっている。4月から設置者が府と市に分かれるので、これまでのように簡単な手続きで交流ができなくなるかもしれない。年間のスケジュール全体を見通しながら接続教育の維持を考えていきたい。

(4) 市立高等学校の大阪府移管に伴う影響

デ研と工芸高校を切り離すことは不可能だと考えている。現状、施設のこと、例えば境界線とか内線電話はどうするのかといったことから検討が進んでいる。

(5) その他

教員の確保も喫緊の課題だ。若手が育ってくれているのも頼もしく感じる。市立高校の府立移管があっても、デ研に残す方策を考えているところである。市教委と調整中だが、次年度以降の学校関係者評価委員会のあり方を検討してまいりたい。大阪市(府)立の高校の学校協議会の仕組みに合わせると年間3回(目標設定、中間達成状況、年度末達成状況)の開催となるが、デ研の場合、どういう仕組みが適切なのか検討が必要だ。

C委員

(1) 企業との連携プロジェクトについて

デ研生の側からこのような企業をやりたいというような要望はあるか。そのような要望にはどう応えているのか。

G委員より はじめから方向性の決まったプロジェクトありきの話もあるが、デ研(デ研生)と企業との日頃のお付き合いのなかで、デ研生の「〇〇したい」という要望を企業側のほうで考慮していただく場合もある。これからもプロジェクトの全体像のなかで、企業目線とデ研生の要望をうまく組み合わせたい。プロジェクトをデ研生に与えるだけでなく、デ研生の要望をいろいろな形で聞く場を設けることが大事だと考える。

(2) 高校との連携プロジェクト(高校との接続性)について

接続授業は希望するデ研生が工芸高校に行っているのか。またどのような形態で行なっているのか。

F委員より デ研生も工芸高校に行っているが、工芸高校生もデ研で授業を受けている。工芸高校生は選択科目のうちの1つ。工芸高校の先生とデ研の先生がテ

ーム・ティーチングの形をとっている。今年は工芸高校プロダクトデザイン科との接続が中心になっている。

接続授業をもっと多く取り組んでも良いと思う。

F委員より 今後の府市という関係で制度的に難しい面が増えるだろう。

(3) その他の意見

入学志願者の定員を超えた一番の要因は何か。

F委員より パンフレットを学生目線で作成した。高校を直接訪問し、広報した。工芸高校の先生方とのミーティングを充実させ、応募時の提出物の課題文の表現を、高校在学中に学んでいることがこれまでより生かされるような課題に変えた。工芸高校以外の受験生も多かったので、今後が楽しみだ。

工芸高校以外からの受験生の特徴は何か。

F委員より 近畿圏に限られるが他府県からの受験生もいる。

受験生の傾向をよく分析し、今後に生かすように。

F委員より 今まであまり受験していない学校からも応募があった。大阪府立全校に募集パンフレットを送ったりしたが、現時点で応募者増の直接的な理由がよくわかっていない。デ研生の作品（桜和高校の校章、エンブレム）を見たことが応募のきっかけになった生徒もいる。

中央高校の校章や咲くやこの花高校の校章の例もあるので、積極的に活用するとよい。専門学校の衰退が言われる中で、(志願者増は) うれしいことだ。

F委員より 後は工芸高校の校長と所長の兼務ではなくなるので、より連携強化を図らねばならない。

100%就職の状況は誇れることだ。さらに広報するべきだ。

F委員より 他の専門学校や大学等と異なり、高校各校に広報活動をおこなう際には(匿名で) 全員の就職状況を知らせるようにしている。そういう取り組みの違いが受験者側にはわかりにくいかもしれない。

司会者 (G委員)

直近の就職状況の説明。100%達成。コロナ禍においては健闘している。

今年のプロジェクトについて説明。コロナ禍なので創意工夫している。

B委員

(1) 企業との連携プロジェクトについて

近鉄百貨店の「にころぶプロジェクト」が印象深い。

G委員より デ研の若い先生が担当していて、次世代の担い手として育ちつつある。にころぶに限らず、インドネシア関連も日本茜関連も若い先生が担当し、その熱意と指導力は今後も期待できるプロジェクトである。

(2) 高校との連携プロジェクト (高校との接続性) について

(3) その他の意見

A委員

(1) 企業との連携プロジェクトについて

本所では地域活性化を図る事業として商店街、インバウンド対応など、さまざまなプロジェクトに携わっていただいている。展示のあった両プロジェクト共に担当者、商店街、ものづくり企業からも好意的なコメントを得ていることを、ここで皆さんにご報告申しあげる。

(2) 高校との連携プロジェクト（高校との接続性）について

(3) その他の意見

本学の就職率の高さは、長年取り組んでおられる実学的なカリキュラムが評価された結果ではないか。こういう点は生徒募集時だけでなく、メディアへの露出機会に付言することで学校としての認知度と印象が高まるのではないかと思う。

2025年大阪・関西万博に関し、大阪パビリオンへ中小企業やスタートアップが出展するプランがある。自分としては、大手代理店のソツない演出でブースを飾るよりも、開催地の熱気やエネルギーをぶつけるべきではないかと思っている。面積や期間がごく限定的なケースであるとしても、こうした展示・出展のデザインを産業界から求められた場合、本学はどう考えるか。